

## 【南九州税理士会会長賞】

### 税と生きる

南さつま市立加世田中学校

三年 南 心春

私の左下肢には、生まれつき痣があります。これは血管腫とよばれるもので、血管の異常が赤痣のような形で皮膚表面に現れます。私はこれまで、この痣のような見た目を気にすることはありませんでした。しかし中学生になってから気にするようになり、母に相談し、皮膚科を受診しました。その皮膚科の先生が教えてくださったのが、私の住む南さつま市は高校生まで医療費が無料なので、その制度を使えば治療を無料で受けられるということです。私のように足に痣がある場合、レーザー治療を行っても効果が出にくいのですが、この制度のおかげで私は治療をするという選択をしやすくなり、治療を始められました。この制度は「子ども医療費助成制度」と呼ばれるもので、税金に支えられて実現しているということが調べて分かりました。大体の市区町村で十五歳までとなっている中で、南さつま市のように高校生まで、しかも全額負担してくれるこのような制度があること、そしてそれを支えている税金のすごさに感心しました。もしこの制度がなくても、健康保険税が適用されて三割の負担で済むけれど、子ども医療費助成制度は更にありがたい存在で、その制度を利用できる皮膚科を紹介してもらえてすごく助かったと母も言っていました。私自身も、この制度やそれを支える税のありがたさを強く感じるいいきっかけになりました。

これらを支えている税金を納める機会が、今の私にはほとんどありません。また、常に税を意識しながら日々暮らしているわけでもありません。このような環境で生活しているなかで私は、今回の治療を通して税についてよく考えることができました。税によって救われるという滅多に出来ない経験をした私ができるのは、当事者になったときにしっかりと税を納めることだと思います。

私達が暮らしている社会をいつ危機が襲うかは、誰も予想できません。そんな危機を救ってくれるのは、日頃から納めている税金なのではないでしょうか。税金の集め方や使い方は各自自治体によって様々であり、それぞれの状況においては、税金の恩恵をあまり感じずに過ごしている人もいるかもしれません。しかし、納めた税金は、見えないところで社会全体の力になっていて、自分だけではなく友達や家族など大切な人の助けにもなっているのです。

税金は人によって支えられ、多くの人を支え救っているのも、また税金です。税金によって治療できた私が今度は誰かを救えるように、納税に責任と誇り、思いやりを持って行動したいです。